

SSKO 社会福祉法人 はらからの家福社会

# われら同胞

NO.34



☆☆☆ 目次 ☆☆☆

- 2 p 巻頭言
- 1年間の振り返り&今年度の抱負
- 3 p 地域生活支援センター
- 4 p グループホーム
- 5 p さつき共同作業所・第2 さつき共同作業所
- 6 p 社会福祉法人はらからの家福社会組織図
- 7 p 新人スタッフあいさつ
- 8 p 賛助会コーナー

# 新年度はらからの家点描、そして市議会では…。

理事 総合施設長 伊澤雄一

2006年に施行された「障害者自立支援法」は様々な物議をかもし、また問題を露呈しながら推移していましたが、今年度からは法改正により新たな局面を生み出しています。

相談支援事業の様変わりや、当会としても取り組みを深めていた退院促進支援(地域移行支援と名称変更)の法定化と給付事業化などがその主だったものです。この

変化に対し、相談支援事業所である地域生活支援センタープラッツの対応体制整備をはじめとした四苦八苦の日々があります。また今回の法改正とは別にここ数年間で計画していた事ですが、2か所の作業所の活動を従来の東京都・国分寺市の補助事業から、「就労継続支援B型事業」「自立訓練(生活訓練事業)」へと大きくシフトしていくこととなりました。名称はさつき共同作業所を踏襲しています。内容や実践のスタイルが変更

となりました。ここに至るまでに、事業検討、市との協議、利用メンバーとの個別・集団による話し合い、人事異動を含む体制整備等々を施し、ようやくこぎつけたというところではあります。さらに居住支援では4か所25部屋を有するグループホームをフル活用しながら、多くの人々の脱病院、脱施設そして自立生活の確立(獲得)へのお手伝いを実施します。

このように、この年度替わりは例年になくあわただしく、現場の喧嘩も一段とという趣ではあります。すが、利用されている方々への生活支援をより充実していく意気込みで取り組みを続けて行く所存です。

※ ※ ※

地域のトピックスとして捉えておくべき事柄として、先の国分寺市議会において「(仮称)こころの健康を守り推進する基本法の制定

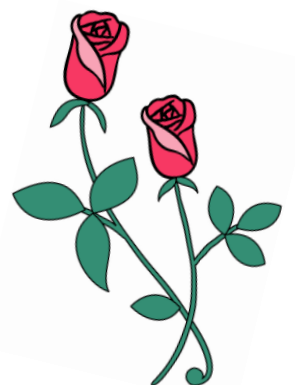
を求める意見書」が採択されました。(以下全文)

『昨年7月厚生労働省は、4大疾患(がん、脳卒中、心臓病、糖尿病)に新たに精神疾患を加えて5大疾病とし、精神疾患を重点疾患と位置づける医療政策の転換を行った。現在我が国では、年間自殺者が3万人を超えるなど先進国で最悪の状況であり、320万人を超える人々が精神疾患を抱えている。また、ひきこもり・虐待・路上生活などの社会問題の多くの背景にも、こころの健康の問題があるとされている。まさに「国民のこころの健康の危機」と言える状況にある。しかしながら我が国の精神疾患対策は、他の先進諸国に比べ著しく低く、社会の取り組みも大幅に遅れているなど、こころの健康にふさわしい精神保健・医療・福祉施策がとられていない。心身の健康は、一人ひとりの国民の基本的な権利であり、社会の活

力と発展の基盤をなすものである。国民がこころの健康を保持し、安心して生活ができる社会を実現するためには、精神保健医療の改革とこころの健康を守る総合的かつ長期的な政策の実現が求められる。よって、国及び国会に対し、こころの健康を守り、精神疾患対策に関する基本理念や施策の基本事項を定める「(仮称)こころの健康を守り推進する基本法」の制定を求めるものである。以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

平成24年3月27日 東京都国分寺市議会」

本議会採択による影響が多方面に及び、こころの健康保持、そしてこころ病む方々の社会参加、地域生活支援が大きく進展すること強く願う次第です。



# 地域生活支援センター プラッツ

## ～平成23年度事業報告～

(相談支援事業、地域活動支援センター事業、退院促進コーディネート事業、指定相談支援事業)

○ 実利用者総数：290名	(昨年度 277名)
うち 登録メンバー数：111名	(昨年度 101名)
男性：57名	(昨年度 53名)
女性：54名	(昨年度 48名)
平均年齢：49.1歳	(昨年度 49.2歳)
国分寺市民割合：78%	(昨年度 79%)
○ 交流室利用者	延べ人数：5,951名 (昨年度 5,729名)
○ 来所相談・電話相談	延べ人数：8,057名 (昨年度 4,948名)
○ 生活支援	延べ人数：792名 (昨年度 609名)
○ 訪問支援	延べ人数：427名 (昨年度 428名)
○ 同行支援	延べ人数：137名 (昨年度 103名)
○ プログラム活動	開催回数：153回 (昨年度 144回)
	参加メンバー総数：1,479名 (昨年度 1,379名)
○ 宅配弁当手配件数	延べ人数：1,673名 (昨年度 1,497名)

※H24年3月31日時点

### ～平成24年度に向けて～

平成24年度は、毛利職員の異動、松崎職員の入職、サービス等利用計画作成(指定特定相談支援事業)の大幅増数、精神科病院からの地域移行・地域定着支援の制度化(指定一般相談支援事業)、ピアサポート活動の拡充(精神障害者地域移行促進事業)等々、新たな取り組みが多数予定されています。これまで以上に、地域の「センター」として必要なことを考え、実践していく所存です。

プラッツ 職員一同

平成23年度、プラッツはほぼ全ての領域において利用者数が増加しました。年度当初から午前中の相談電話を再開したことによって、相談支援機能の充実は数字上ある程度達成できたと云えます。来所相談・電話相談がほぼ倍増になった理由としては、実利用者総数の増加、退院促進コーディネート事業のアウトフォロー支援の増加、指定相談支援事業に関する相談者の増加等が挙げられます。

プログラムの充実については、既存プログラムの安定化、回数増等が図られました。平成22年度にはじまったゲームの時間は、参加者の遊具への慣れや、参加者同士の交流への

実践していき所存です。

平安を思っています。

安心して利用できる雰囲気については、交流室の利用マナーの向上を、みなさまの協力を頂きつつ進めていきます。

継続的なプログラム開催は大切ですが、その時々優先的なニーズに 대응するという点において、個別支援と同じく即応性・柔軟性も大切であると考えます。

(詳細はプラッツ通信参照)も、活動開始から数年経ち、今後の在り方を考えている最中です。定期的・継続的なプログラム開催は大切ですが、その時々優先的なニーズに

実践していき所存です。

# 平成23年度 グループホーム 事業報告

## ピア国分寺 国分寺コーポ グリーンハイツ メビウス

ピア国分寺 松岡 伸吾

平成23年度は全GH合計で入居者13名、退去者14名となりました。3月末時点での利用者実数は20/25となりました。前年度は入居者3名、退去者6名ですので、総入退去支援数は前年度比300%増となり近年稀にみる大変忙しい年度となりました。各GH(ユニット)の内訳は以下の通りとなります。ピア国分寺(定員7名)入居者4名、退去者3名。国分寺コーポ(定員6名)入居者3名、退去者4名。グリーンハイツ(定員6名)入居者2名、退去者4名。メビウス(定員6名)入居者4名退去者3名です。

入居者された方の中にはプラッツも都から受託している退院促進コーディネート事業(以下タイソク事業)を利用してGH入居に至った方が

3名含まれて居ます。いずれの方も「グループホーム活用型ショートステイ事業」(以下ショートステイ)を利用されました。

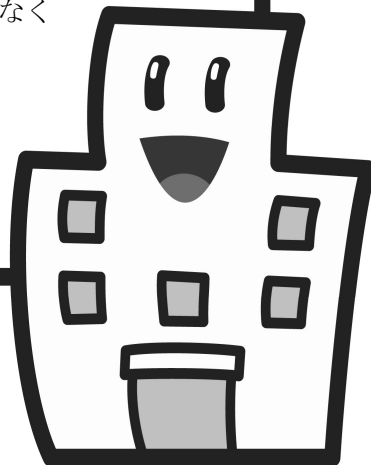
また、ショートステイ全体としては、14名(前年度8名)の方がのべ172日(前年度116日)利用されました。22年度からの課題であった地域からの短期利用等にも対応したため、利用者数が大きく伸びる結果となりました。地域移行へは欠かせない事業ですが23年度で一旦終了し、24年度からは新たな枠組みの中で展開していくこととなります。ショートステイは依然としてニードは高くはらからとしては何かしらの形で継続していければと考えています。運営体制としては、23年度

は入退去予定者数増を踏まえ、常勤4名、嘱託1名、非常勤1名と職員数を増強しこれに当たりました。職員増に加え、入居直前で入居を見送った方が何名かいたため、結果として収支は大きく落ち込みました。

また、処遇面ではGH合同企画やバス旅行等を通して各GH利用者間の交流を図ると共に、グループミーティングに担当以外の世話人が参加する等、全員の顔が見える支援を心がけました。

### 平成24年度抱負

24年度は23年度程の入れ替わりがないことと、法人の収支状況及び他部門が新事業に移行しマンパワーの集中が必要なことを鑑み、1名減の常勤4名非常勤1名の体制で臨む予定です。23年度に引き続き、チーム体制をより徹底し、各世話人が担当GH以外のメンバーにも過不足なく対応できる体制を築いていきたいと思いをします。



## さつき共同作業所・第2さつき共同作業所

岡本 和子 橋本 佐知子 中野 悟



### 平成23年度を振り返って

まさに自立支援法(廃案)になったが(続行中)に振り回された1年でした。

「自立」という名のもとに、補助金で運営していた作業所が、個別給付という利用者負担

金発生の事業に変わるため、結果的には自己負担のかかる人は少ないものの、運営側は個々の目的に添うつもりが、商いの

ようになっていくことになりました。商い感覚が福祉をする者にとつて欠けているのは自覚しなければならぬもの、働きたくても働けない状態や環境であり、所得保障もない利用者の方へ商いはできません。又利用者が106項目の調査を受けなければならぬという、個々の利用者の思いも計り知れないものがあります。当作業所のあおりを受けた大きな事業は弁当喫茶アザレアの休止です。少なくともありましたがお得意様も付き、多くの利用者との多くのスタッフ、ボランティア

### 平成24年度に向けて

できる限りの現状維持とともに、新たな機能を加えて走り出しました。

まず今まで利用されていた方々へ今まで通りできるだけ利用できるように、元2つの作業所を1つにして両方の作業所を使えるようになりました。働くという観点と同時に、生活者としての観点を大事にし、どんなニーズの方でも幅広く利用できるよう、作業関係(就労継続B)だけでなく生活訓練を加えました。通うだけでなく、通うことが困難な方にも同じようなサービスを、しかもできるだけ個々に届けられるようにとスタッフによる訪問ができることになりました。同時に、通所困難な方に送迎機能を加えました。

そのため、新車2台、平成23年度東京都障害者自立支援基盤整備事業を利用して購入させて頂きました。はらから内部の異動で、若くても実力者2名が加わりました。

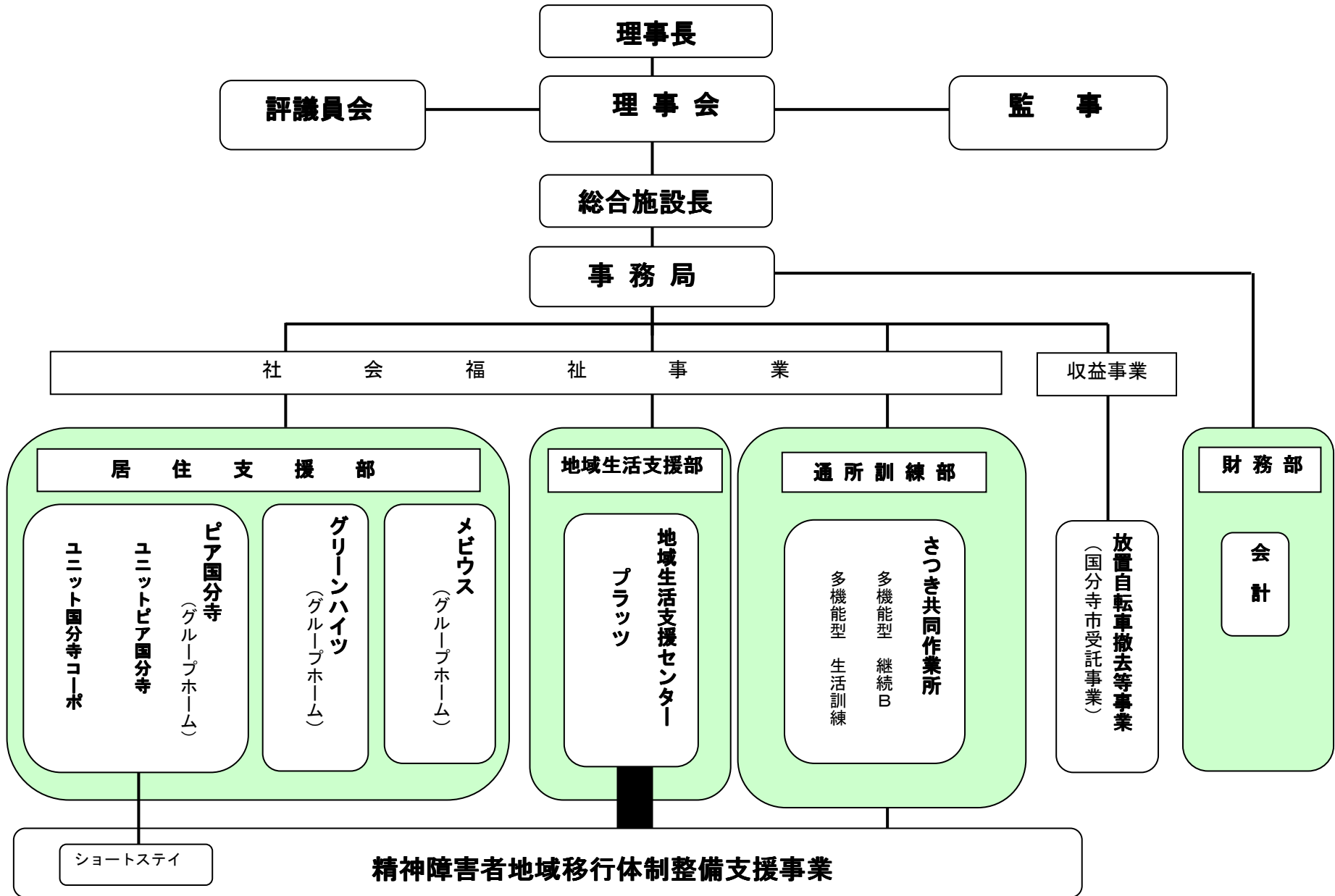
まだまだ、円滑な運営ができておりませんので、日々、皆で悪戦苦闘しながら、ニーズに添えて行けるよう根気よくやり続けるのが24年度です。

社会はいろんな人で成り立っています。どんな状況下でも、支えあい、暮らしやすい生活ができるサポートをしたいと考えております。24年度もよろしくお願い致します。



訪問・送迎に活躍中!

社会福祉法人はらからの家福祉会 組織図 (平成24年度)





さつき共同作業所  
大井 弘子

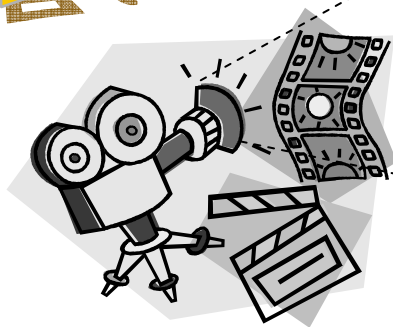
# 新職員紹介

地域生活支援センター  
プラッツ 松崎 里香

4月から法人内のグループホームから作業所に移動になりました大井と申します。グループホームでは非常勤として入社し嘱託職員として働いていました。出身は横浜でも横浜が一番好きな場所です。趣味は読書やアロマで長風呂をしたり映画鑑賞・編み物などまったりするのが好きです。ものづくりが好きなので作業所での陶芸やビーズや革細工ができるのを楽しみにしています。覚えなくてはならないことが沢山あり最初の内は至らない点が多くご迷惑をおかけすると思いますが一日も早く仕事を覚えて頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

はじめまして4月から新しく暮らすことが出来るように日々の生活について一緒に考え悩んだり、何気ないことで笑ったり喜んだりすることが出来る場所をみなさんと共に造っていかたいと思います。まだまだ慣れないことも多く迷惑を掛けることもあると思いますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。

# 予告!



人生、  
ここにあり!

09年  
イタリア・  
ゴールデングローブ賞  
受賞  
09年  
ダヴィッド・デトナテロ賞  
David of the Youth  
受賞

今年の精神保健福祉講座は、上映会

# はらからの家福社会賛助会 〇一十一

<平成23年度11月から3月の間に賛助会費をご納入頂いた皆様(順不同 敬称略)>

相澤 和美 赤石 弘子 石川 義博 伊東 紘子 伊澤 雄一 上賀 祥智 粕谷 嘉子  
 片山 ヤエ 川崎 嘉代 加藤 初江 小林 暁子 佐藤 久夫 坂田 晴弘 清水 美子  
 新堀 浜江 鈴木 汎子 鈴木 政彦 高見 法孝 竹内 幸子 塚田 弥生 中嶋 ゆき  
 中村 典男 服部 洋三 本城 和夫 三浦 香織 宮内 禮子 森田 忠雄 山岸 琴美  
 山崎 昌子 渡辺 澄子 丹野 章子 藤田 英親 山田 正則 窪田 恭 分島 徹  
 石原 みち子 伊藤 順一郎 伊澤 美枝子 江口 八重子 梶井 由紀子 粕谷 由紀子  
 加藤 元一郎 末盛 三枝子 高橋 千恵子 中嶋 てる子 野々瀬 悟子  
 野の花メンタルクリニック 匿名2名

敬称略

会員の皆様、本当にありがとうございました。今後ともなにとぞ宜しくお願い致します。

## 23年度はらからの家福社会賛助会決算報告 単位：円

支 出		収 入	
郵便手数料	13,910	賛助会費収入(140名)	702,500
法人寄附	600,000	雑収入(利息)	5
当期繰越金	105,726	前期繰越金	17,131
合 計	719,636	合 計	719,636

※郵便振替用紙を同封させていただきましたので、平成24年度賛助会費、何口でも結構です。お振込みいただけると幸いです。会費をご納入いただいた方のお名前を本紙に掲載させていただいておりますので、匿名希望の場合はその旨通信欄にお書きください。



はらからのホームページ開設しました。

<http://harakaranoie.com/>



### 編集後記

今年度は、はらからの事業に大きな変化があり、法改正の動向も気になるところです。

梅雨の晴れ間が心をホットさせてくれると思います



【編集人】社会福祉法人はらからの家福社会  
〒185-0021

東京都国分寺市南町 3-4-4

TEL 042-323-5637

【発行人】身体障害者団体定期刊行物協会  
〒157-0073

東京都世田谷区砧 6-26-21

【定 価】¥120